

登録コード:MH187300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	成人看護学実習（看護の実践と応用）【22M以降】 Clinical Practice in Adult Health Nursing			
担当教員	新井 清美 他 岡島 志野・北條 由美乃・近藤 協子・笠原 邑斗			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	2 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		患者および家族と援助的な人間関係を築くことができる。	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		患者および家族を身体的、精神的、社会的側面から総合的に捉え、健康問題・課題を明確化することができる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		個別性に応じた看護計画を立案・実施し、評価・修正することができる。	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		医療チームメンバーの中での看護師の役割を理解できる。 自己の看護活動を言語化し、他者との共有を通して学びを深めることができる。 看護学生として責任ある態度・行動をとることができる。	
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		対象の個性に応じた看護計画を立案・実施し、評価・修正することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身につけている。		健康問題を有する人と家族の健康課題に対して、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく基礎的能力を研鑽し、看護を展開することができる。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		患者および家族を身体的、精神的、社会的側面から総合的に捉え、健康問題・課題を明確化し、医療者と共有することができる。	
対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。		患者および家族と援助的な人間関係を築くことができる。また、医療チームメンバーと適切な関係を形成し、看護職としての協働的な役割を意識することができる。		
プロフェッショナリズム 看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身につけ、看護専門職者として省察的・自律的に行動することができる。		
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本実習は、既修の知識・理論・技術を活用して患者および家族を総合的に理解し、患者に応じた看護を実施するための知識、技術、および態度を修得します。さらに、患者・家族を中心としたチーム医療および継続医療とそれに伴う看護の役割を考察し、質の高い看護を探究していく姿勢を育みます。 本実習は、2年次に学んだ「成人看護学概論」、「成人臨床看護論」、「成人看護健康論 ・ 」、3年次前期に学んだ「成人看護方法論」の知識および技術を前提としています。そして、本実習の内容は3年次後期の臨地実習「成人看護学実習（看護の実践と統合）」の基盤となる実習です。 本実習では担当教員の看護師としての実務経験を活かした指導を行います。			
授業計画	本実習は2週間の病棟実習です。 <実習期間> 7月6日（月）～7月17日（金） <スケジュール> 1日目（臨地）：病棟オリエンテーション、受持ち患者の情報収集・情報の整理、学生カンファレンス 2日目（臨地）：受持ち患者の情報収集・情報の整理・アセスメント、看護活動への参加、学生カンファレンス 3日目（学内）：受持ち患者の情報整理・アセスメント・看護計画立案 4～5日目（臨地）：受持ち患者のケア（患者情報収集・アセスメント・看護計画立案および検討）、学生カンファレンス 6～7日目（臨地）：受持ち患者のケア（看護計画の実施・評価・修正）、学生カンファレンス 8日目（臨地・学内）：受持ち患者の看護計画実施（臨地）、看護計画の評価・修正（学内） 9日目（臨地）：受持ち患者のケア（看護計画の実施・評価・修正）、病棟最終カンファ			

授業計画	レンス 10日目（学内）：実習まとめの会 ＊実習最終日には授業アンケートを実施します。
授業の進め方	2週間の病棟実習を行い、健康障害を有する対象を受け持って看護過程を展開します。日々カンファレンスを実施し、グループメンバーで学びを共有します。実習最終日には、臨地実習の成果を基に、学びと残された課題を整理・検討するグループワークを行い、発表を通して相互に共有する「実習まとめの会」を行います。
テキスト，教材，参考書	<参考書> 成人看護学概論、成人臨床看護論、成人看護方法論、成人看護健康論 ・ で用いたテキストおよび、授業で配布した参考資料を活用します。
成績評価の方法	看護の実施内容、実習記録、実習態度、カンファレンスへの参加度や内容を成績評価の対象とし、成績評価の基準に従って総合的に評価します。
成績評価の基準	実習評価項目 援助的な人間関係の構築、患者の全体像の把握と問題・課題の明確化、個別性に応じた看護計画の立案、個別性に応じた援助計画の実施・評価・修正、チーム医療と看護の役割の理解、自己の看護活動の言語化および他者との共有、実習に取り組む姿勢、について、「卓越している（秀）」＝主体的・積極的に適切な判断のもとに実施でき、看護を発展できる／「かなり上にある（優）」＝必要時支援を主体的に得ながら、自ら看護を展開する力がある／「やや上にある（良）」＝支援者の指摘により必要な自己の学修課題を見出し、自ら取り組むことによって実習目標を達成できる／「水準にある（可）」＝学修する上での課題や方法について指導を受け実習目標を達成できる、と評価します。 総合評価60点以上の評点を得たものを合格とし、総合的評価の判定基準は下記の通りとします。 90-100点（％）：秀 80-89点（％）：優 70-79点（％）：良 60-69点（％）：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 実習前オリエンテーションで提示される事前課題に取り組み、3年次前期（6月）までに修得した知識・技術を復習するとともに、必要な基本的看護技術を主体的に練習して実習に臨んでください。 実習指導者や教員から学修のアドバイスを受けたらそれに取り組み、実習を進めてください。 【事後学習について】 日々の実習後に振り返りを行い、翌日の実習に向けて指導者や教員と学修内容を確認してください。学修した内容や成果は、記録として整理・提出してください。 本授業の単位修得には90時間の学修が必要です。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	成人看護学実習（看護の実践と応用）を履修するにあたっては、成人看護方法論の単位取得が条件となります。 看護を学ぶ貴重な学修機会となりますので、主体的な取り組みを期待します。体調を整えて休まずに実習に臨んでください。 実習中の質問・相談への対応：随時各担当教員、または新井清美 k_arai@shinshu-u.ac.jp が対応します。